

道 徳

道徳の時間の指導では、児童生徒一人一人が、道徳的価値の含まれるねらいとかかわりにおいて、自己を見つめ、道徳的価値を内面的に自覚し、主体的に道徳的実践力を身に付けていくことができるように、指導過程や指導方法を工夫する必要があります。

1 ねらいとする価値への方向付けを明確にしよう

児童生徒にとって、道徳の授業が「いつもと同じような授業でつまらないもの」ではなく、「楽しくてためになるもの」と実感できるようにするためには、まず導入の段階で、自己の在り方や生き方についての問題意識を持たせ、扱う資料についての期待と関心を高め、ねらいとする価値への方向付けを明確にする必要があります。

そのためには、児童生徒の実態を把握した上で、心に強く訴え、思考の深まりが期待できるような資料の選定と分析が必要となってきます。子どもたちの感動を呼ぶ実話に基づいた読み物資料や映像コンテンツを活用した資料、「心のノート」など、道徳の時間の資料として活用できるものはたくさんあります。それらを効果的に活用し、子どもたちが、ねらいに照らして自己を見つめ、主体的に道徳的価値を自覚できる学習の流れを構想することが大切です。

2 話し合い活動を効果的に取り入れよう

道徳の時間の指導において、話し合い活動はとても重要な意味を持っています。話し合うことにより、児童生徒は、広い視野で物事を主体的に考えることができるようになり、道徳的価値への自覚をより一層深めていくことができます。

話し合い活動を授業の中に効果的に取り入れるためには、指導過程の「どの段階で・何のために・何について」話し合うのかを明確にしておく必要があります。そして、話し合い活動を意義あるものにしていくためには、互いの思いや考えを共感的に理解し合おうとする人間関係づくりが必要となります。日頃から子どもたちの中に好ましい人間関係を築いていくための集団づくりを行いながら、子ども同士のかかわりを豊かにしていくことが大切です。

3 様々な体験活動を通して、豊かな情操を養おう

体験活動が、道徳の時間に取り入れられることがあります。体験活動そのものを道徳の時間で行うのではなく、体験活動と道徳の時間のそれぞれの特色を生かした関連指導をより充実させる必要があります。

そのためには、車椅子体験などの模擬体験を道徳の時間の一部に取り入れたり、ボランティア活動などの体験活動を道徳の時間に生かしたりしながら、道徳的価値への自覚をより一層深め、豊かな情操を養っていくことが大切です。

